

3832 地球のかおり：「夢のアルプス」(産経新聞)・心模様

子供の頃の憧れ、スイスアルプスの夢景色。偶然、現実にご対面！ 夢が叶った。
夢のアルプスには物語がある。この作品の中で想像する物語は、夢か現実か。
時空を超えたダブリがある。なぜか、アルプスの少女・ハイジが、思い浮かんだ。

春を迎えたスイスアルプスの一コマ。雪におおわれた雄大な山々を背に、
眼前は、緑と黄色の草花、その対比が実に面白い。
羊なのか、ヤギと呼ばばいいのだろうか、のどかな環境の中、
食事に夢中になっている小動物たち。私も、お腹いっぱい美味しい空気と一口の水。
さまよい、すこし疲れていたが、それも吹っ飛んだ。
ハイジのように嬉しくなって、子供に戻って、スキップを踏んだものだ。

その後の、夢想の時間。かすかな記憶の中に、お伊勢参りやお江戸以外、
京都から出たことがない祖母だが、世界観や見識は、過大評価だろうが、記憶に残っている。
スイスの話も含まれていた。単なる、物知りだけではなかった。
知恵や創意工夫、日常生活で、眼前で実践してくれた。生母の記憶は、かすかしかない。
祖母は、なかなかのハイカラさん。今日あるのは、祖母のおかげと言っても過言でない。

その影響もあり、明治生まれの親父殿も、満州、今の中国へ修学旅行。
また、晩年一ヶ月も、欧州各地を探訪、そのほか、国内の小さな旅は、生涯 180 回、
92 歳まで机に座り、記録を残してくれていた。当時、いろいろな試練があったが、三男坊。
私にお鉢がまわって来たのは、父が残した資料だけ。
もともと、美田残さず、という方針の上、放任主義。世間との付き合い方は、私は苦手。

アルプスの少女・ハイジ。テレビで、40 年近く放映されていたと思う。
私の 30 代の頃、始まったテレビ番組。サンモリッツ経由で行けるスイスの山間にある
小さな田舎町、マイエンフェルト (ハイジ村)。
雄大な山々、緑の牧草地、のどかに響くベルの音。スイスの女流作家、ヨハンナ・シュピーリが、
約 130 年前に書いたアルプスに暮らす少女「ハイディ Heidi」の物語を原作にして、
アニメ番組が放映された。30 分番組で、全 52 話。毎年、再放送が繰り返された人気番組だった。

最初に放送されたのは、1974年。第1話は、ハイジ5歳、第19話、8歳。

ハイジは、明るく素直で、思いやりのある女の子。両親は、幼い頃、亡くなってしまい、デーテおばさんに育てられていたが、5歳のとき、アルムの山へ。

アルムおじさんや男の子・ペーター、ヤギのユキちゃんと過ごす山での生活が楽しかったと。

なぜか、強く、心ひかれて、番組を見た記憶がある。

思えば、4歳のとき、生母と離別。他界したと聞かされていた。

小学中学、度重なる転校と転居。深層に、人恋しさ？ 自然や動物への興味と感謝。

ハイジに共感？ なにか共通するような、思いがあった。

その感覚が、今も潜在意識に残っている。

作品に自然や生き物が多いことや心象的な作品が多いのは、幼児体験が影響している。

この作品「夢のアルプス」の光景に、目も心も奪われたのも、うなずける。

作品では、家畜小屋だが、アルムおじさんの家は、あったかい山小屋、

置いてあるものも、雰囲気はじめ、親しみを感じたものである。犬のヨーゼフ。時に厳しい自然。

時に黙ってやさしく包み込んでくれる大自然。ミルクと黒パンとチーズ。

小鳥の声で目覚める。挨拶。おはよう。お弁当、花一杯、夕日がきれい。

口笛、栗やヤマブドウ。お口が真っ赤、雪崩、春の花、雪割草、春の訪れ。友達ピーター。

季節の移ろい。山で思いっきり働いて、遊んで、お家^{うち}に帰る。

今日1日の出来事を、おじいさんに話す。食事の準備。チーズをとかす。

フォンジュがいい。そこには、裕福でなくても、心楽しい人生が。まさにその通り。

私が望んだこと。しかし、そんな体験ができなかった。幼児体験の大切さ。

実に私的なことを書かせて頂いたが、夢のアルプスの光景に魅せられた、心の背景がある。

物語は、まだまだ広がるが、主題から離れるのでこの辺で。

なんでもない夢のアルプス。そんな心境にあるのだろうか、ハイジ物語が、思い浮かんだ。

地球ひとり旅ゆえの、死との背中合わせの危機体験も数々。叶わなかった夢も多い。

今は、プラス思考。ネットでは、明るい、楽しい話だけ。数々の人生体験をさせてもらった。

スイスアルプス。憧れと夢が実現。誰に感謝をすればいいのか。

厳しかった試練は、懐かしく、大きな人生の基幹となっている。今は、心の財産。